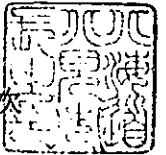


北 都 計 第 5 3 号
平成20年10月9日

国土交通省
道路局長 金井道夫 様

北見市長 神 田 孝 次



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平素より、本市の道路行政に対しましてご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付国道企第37号でご依頼のありました標記の件につきまして別紙のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

（都市建設部 都市計画課 都市企画担当）

今後の道路行政について特に訴えたいことは、高規格幹線道路の整備を積極的に進め出来るだけ早く供用してほしいということです。北海道は国土の22%を占める広大な面積を有しているものの高規格幹線道路の整備は全国に比べて著しく遅れており、地域間の移動時間の長さが観光の振興や生活の利便性等の面で支障となっています。さらに鉄道は赤字路線の廃止やダイヤの見直しなどで縮小される傾向にあるため、広域的な地域を安全に効率的に結ぶ高規格幹線道路網は必要不可欠な社会基盤施設です。

特に我々の住む北見地域は高規格幹線道路の整備が遅れておりますので、道路特定財源の一般財源化により、整備が遅れることのないよう、必要な道路予算を確保することはもちろんのこと、今後は整備の遅れている地域への集中的な投資により積極的に整備を進めて頂きたいと考えています。

国会では中期計画の基となった交通量推計のあり方についての指摘もありましたが、現行の事業評価手法では結果が交通量に大きく左右されるため、北海道のように人口密度の低い地域には極めて不利な状況です。

高規格幹線道路は、救急搬送時間や通院時間の短縮、観光や産業の振興、長距離移動の安全性・定時性の向上(特に冬期間)など様々な効果をもたらすものと期待しているところであり、この地域が日本の食糧基地として将来にわたり国家に貢献し、人々が住み続けるために必要不可欠な社会基盤施設であると考えています。

また、道路はネットワークが形成されてこそ効果を発揮するものであり、高規格幹線道路が全線供用されると北海道観光のあり方も大きく変化すると思います。移動時間が短縮され滞在時間が増えれば、地元への経済効果も大きいと思いますので、こういったネットワーク効果や道内経済への波及効果等も便益として考慮すべきであると考えます。

新たな交通需要推計や事業評価手法の検討にあたっては、地域事情にも考慮し、先に述べた様々な効果等も加味して地方が真に必要なとしている道路が適切に評価されるような方法で作業を進めるべきだと思います。

地方分権推進委員会がまとめた第1次勧告で直轄国道の都道府県への移管が盛り込まれましたが、これまでの北海道開発行政の経過を踏まえつつ、国土の骨格ともいえるべき高規格幹線道路や国道の整備等は国が責任をもって進めるべきだと考えています。

北海道内の国道は急峻な地形の中を通過しており、北見市においても国道333号の法面崩壊や土砂災害が発生しております。こうした大規模な災害に対応するには多額の費用と高度な技術を要します。道民の生命と暮らしを守るため北海道開発局は必要不可欠な存在であり、地方分権改革の名のもとに廃止されることがないように、存続を強く望みます。

○現状

オホーツク地域は全道一の漁獲量を誇り、農業においても十勝に次いで2番目の算出額となっており、食料王国北海道を支える地域です。

周辺地域には世界自然遺産の知床や大雪山国立公園や阿寒国立公園などの雄大な自然が魅力的な観光地が多数ありますが、移動時間が長く滞在時間が短いことが観光の振興を図る上で課題となっています。

オホーツク地域の第三次医療施設は北見赤十字病院のみであり、子どもを出産できる病院は7箇所しかないため、住民の生命を守るため救急搬送や通院時間の短縮が必要となっています。

全国で4番目という広大な面積を有する北見市は、各自治区の歴史や地域特性を尊重するとともに、それぞれの地域資源を活用しながら、市全体の魅力を高めるまちづくりを進めています。

広域的な移動時には1000m級の石北峠をはじめとする急峻な地形が多いため、路面の凍結する冬期間の通行はドライバーの心理的な負担は極めて大きい状況です。

市街地内の幹線道路においては高齢化の進展にともなう歩道のバリアフリー化が必要な状況となっています。

北見市内の幹線道路は施設の老朽化に伴い更新時期が迫っており、補修・改修に関する経費が増加しています。

北見市にある橋梁についても525橋の点検を平成23年度まで完了することとなっており、益々厳しい財政状況となっています。

○課題

日本の食料基地としての北海道の役割を果たすために、この地域の新鮮な水産物や農作物を効率的に港湾や空港等の物流拠点まで運ぶために高規格幹線道路の早期整備が必要です。

広大な北海道内に分散する観光地への移動時間を短縮し、北海道観光の魅力を高めるために、高規格幹線道路の整備の遅れているオホーツク地域における整備を積極的に進め、道内の高速道路網の早期の全線供用開始を目指す必要があります。

地域住民の生命を守り安心して生活することができるよう、救急搬送時間や長距離通院の負担軽減を図ることが出来る高規格幹線道路の早期整備が求められています。

市内の各地域を連絡する道道・市道等の整備や線形改良等により地域間の移動の安全性・定時性を確保し、地域間交流の推進と持続可能な地域づくりを目指す必要があります。

急峻な地形が多い北海道の長距離移動の安全性・快適性を高めるために高規格幹線道路の整備は極めて効果的であり、早期の整備が急務となっています。

北見市においては平成15年度に交通バリアフリー基本構想を策定し、基本構想の早期実現が課題となっています。

道路施設の老朽化に対応するため、計画的な補修・改修や橋梁の長寿命化対策が必要となっていますが、橋梁点検だけでも約1億円の負担となり、更に補修・改修となると、100億円以上かかることが予想され、北見市にとって大きな負担となります。

○現状

景観法の制定によって景観に対する関心が高まる中、北見市の顔とも言える国道３９号の老朽化の激しい区間の景観整備が求められています。

生活道路の整備に対する市民要望は多く、限られた予算の中で対応に苦慮しています。

○課題

国道３９号の無電柱化等により、オホーツクの中核都市にふさわしい質の高い街路景観の形成を図り、来訪者が快適に安心して歩くことができる街路空間の創出を図ります。

北見市の生活道路の整備率は約５６％となっており、未整備路線の計画的な整備が課題となっています。

- 2 地域の目指すべき将来像

北海道北見市

現在、北見市では新たな総合計画を策定中です。本年6月には当市の将来像を示す基本構想が議会で議決されています。

その中で当市の将来像は「北の大地に光を求め、大自然を切り拓いた先人のチャレンジ精神を受け継ぎ、子どもからお年寄りまで一人ひとりがきらめき、自然と共生し、元気のあるまちをめざします。」とされています。

また、この将来像を実現するために、6つの基本目標が掲げられています。

- (1) 自然と共生する安全・安心のまちづくり(環境・安全)
- (2) 豊かな心と文化を育てるまちづくり(教育・文化)
- (3) 支えあい、一人ひとりを大切に作るまちづくり(健康・福祉)
- (4) 活力を生み出す産業振興のまちづくり(産業・観光)
- (5) 住む喜びを実感できる生活優先のまちづくり(都市・生活基盤)
- (6) 市民とつくる信頼と協働のまちづくり(地域・自治)

目標実現のために、道内の主要都市や物流拠点へのアクセス向上を図るため、北海道横断自動車道の早期建設を促進し、地域間の移動が安全で確実なものとなるよう、国道、道道等の主要幹線道路の整備や市街地内道路網の整備を図ることや、歩道のバリアフリー化の推進、橋梁等のライフサイクルコストの縮減等が謳われています。

国土形成計画においては、広域ブロックの連携によって活力ある国土を形成するため、1日交通圏の充実に向け、ブロック相互を結ぶ道路・鉄道・港湾・空港等の国内交通基盤を総合的に整備・活用し、基幹的なネットワークや拠点の機能確保を推進するとされています。

道路に関しては、最新の需要推計などを踏まえ、真に必要な道路整備は計画的に進めるとされ、主要都市間を連絡する規格の高い道路、空港・港湾へのアクセス道路などに重点をおいて整備を推進するとされています。

北見市は、たまねぎを代表とする農産品の生産が盛んな地域で、苫小牧港等から全国各地へ出荷するなど日本の食糧供給基地として重要な役割を担っており、重要港湾へアクセスする広域交通ネットワークの形成は必要となっています。現在、都市計画マスタープランの見直し作業を行っていますが、平成11年に策定された現行の都市計画マスタープランにおいては、広域交流拠点の形成を図るため、北海道横断自動車道、遠軽北見道路等の整備促進を図るとされています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式

道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道北見市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・都市交通の快適性・利便性の向上 ・良好な景観の形成 ・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	●北海道横断自動車道の早期供用開始 ●合併により広大になった北見市内の地域間を結ぶ幹線道路の整備 ●国道３９号の無電柱化推進 ●北見市交通バリアフリー基本構想における重点整備地区内の特定経路の整備推進	○期待する効果や評価等 - 地域間交流の促進 移動時間の長さが支障となっている北海道観光の魅力が高まり地域の活性化が期待されます。 物流拠点への移動時間短縮やアクセス性の高さがアピールでき、企業誘致が有利になります。 救急搬送時間の短縮が図られ地域住民が安心して生活できるようになります。 ○全国で４番目の面積を有する北見市内を安全で快適に結ぶことにより、地域間交流の促進と各地域の活性化が期待されます。 特に北見～常呂間は大雨や大雪に弱く、安定的な交通の確保に対する期待は大きい。 ○北見らしい青空が広がる文化的で質の高い都市空間の形成により、市民が自分のまちに対する誇りと愛着を持てるようになります。 ○重点地区内の特定経路において歩道幅員を確保するために道路幅員の見直しを行うとともに視線誘導ブロックの設置などを進めるほか、冬期間の歩道路面対策の検討を行い、冬でも安心して歩ける歩道整備が期待されています。	